



赤利根ニジャーナル

2017
8



赤利根
AKATONE



【大胡祇園祭り】7月30日、暴れ獅子に担ぎ手のお手伝いとして参加。古くから栄えた赤城南麓、大胡の地で
行われるお祭りです。江戸時代末期に、大胡に疫病が流行しそれを駆除しようと天王様と暴れ獅子がまちを練り
歩くようになったのが起源とされています。激しく上下左右に暴れる獅子が一見の価値ありの、市外に向けても
誇れるお祭りです。大胡祇園祭り・暴れ獅子の詳細は、ホームページ (shishi.huu.cc) をぜひご覧ください。

前橋市議会「赤利根」とは？

赤城山の赤に利根川の利根であかとねと読みます。はるか昔からこの地を形成してきたその2大要素を中心に、前橋のさまざまな魅力を市民の皆様とともに考えて、市外、県外、海外に誇れるまちにしていきたい。この思いを実現していくために活動する会派です。



所属議員

岡 正己 (おか・まさみ)

1980年12月29日生まれ。前橋市出身、下小出町在住、まちなかが活動拠点のため事務所は千代田町。父は大利根町、母は富士見町のmade in 前橋の36歳。二児の父。

第2回定例会の報告

平成29年6月14日～6月30日

平成29年6月23日 総括質問三日目（23分間）

岡正己（赤利根）

※議員の発言内容は「読みやすさ」を意識し、割愛・編集している箇所がございます。

議事録は「前橋市議会議事録」としてウェブ上で公開されておりますのでそちらをご覧ください。

1. 自転車のまち前橋について



サイクルラックが置いてあるまちなかのお店

「自転車のまち」というよりは、「自動車のまち」

かねてより「前橋自転車通勤部」という市民活動を重ねてきた岡議員。その経験を活かした質問と要望を行いました。

岡議員 「自転車のまち前橋」と謳っているが、一般市民の感覚として、その実感があまりありません。どちらかといえば、「自動車のまち」という印象のほうが強く感じます。今後の「自転車のまち前橋」としての展開についてどのようにお考えでしょうか。

政策部長 それほど自転車に関心がない一般市民の方々には、まだまだ周知が足りていない。環境保全

や健康増進、渋滞解消などの効果を伝えるとともに、戦略的なPRも大変重要であると考えております。本年4月には、交通政策課に交通安全・サイクルプロモーション係を設け、「自転車のまち前橋」推進プロジェクトを進めております。

岡議員 店舗へのサイクルラックの設置、放置自転車の利活用の先進的取り組み、小学生を対象にしたロングライドイベントなど、できることは山ほどあります。今年設置されたサイクルプロモーション係に期待します。また、現在利用者がいない駅前のサイクルツリーの駐輪定期券をふるさと納税の返礼品とし、利用を促進することもご検討ください。

2. 指定管理者制度の促進について



夜の遊園地「るなばDEないと」は、今年が3年目

指定管理者制度によって息を吹き返す

前橋市中央児童遊園「るなばあく」では、平成27年度より指定管理者が替わりました。その結果として、平成28年度に開園以来最高の遊具利用者数となったそうです。

岡議員 これまで「るなばあく」の築いてきた魅力や価値を尊重しつつ、新たな魅力創出にも積極的に取り組んできた現指定管理者の運営努力やその実績について、どのように考えていますか。

建設部長 新たなイベントの展開やそれに伴うメディアへの露出が高まったことはとても大きく、地域の活性化につながっている。

岡議員 市としての施設運営に対する姿勢を見せることも必要だと感じます。そこで、優秀な指定管理者を表彰するというのはいかがでしょうか。

建設部長 民間の活力を活かした施設運営には、市の連携も重要だと考えます。表彰基準など現在の制度なども考慮しつつ、関係課と協議していきたい。
岡議員 都市公園法改正による規制緩和などの動向によっては、前橋公園に指定管理者制度を導入するのにも一策だと考えます。関連条例改定にあたっては、前橋独自の規制緩和等を盛り込み、官民共創の民間活力を最大限に活かしてほしい。

3. 前橋工科大学について



まちなかのシェアハウスに居住する前橋工科大学の学生

市内就職、学科の新設

前橋工科大学には、法人化後も運営費交付金等の税金が投げられています。今回の議案第66～68号の合計3件では、1億1548万円の条件付一般競争入札による契約が議決を求められています。

岡議員 大学を運営する意義について伺いたい。

総務部長 教育および研究の発展・充実はもちろん、市の活性化と産業振興にこれまで以上に貢献できる存在となることが大学を運営する意義である。

岡議員 大学への入学者の状況と市内就職者の割合ははいかがでしょうか。

総務部長 平成28年度の入学者状況は、市内から17名、前橋市を含む県内から73名、県外から233名との合わせて306名。市内からの学生の割合は全体の約7%。一方、244名の学生が就職しており、前橋市内に本社のある企業に就職したのは16名、県内企業は30名、県外企業へは198名で、市内企業への就職割合は約7%となっています。

岡議員 大学として、新しい時代や新しい技術に対応し、新たな学科の新設を考えることも必要かもしれません。

総務部長 大学としては現時点では未検討と聞いているが、今後議論されていく可能性はあるでしょう。

4. アーツ前橋 開館5周年について



開館記念展のようす

5周年は、早めの議論で

5周年の年は、市民はもとより県外の方に対し、取り組みをアピールする絶好の機会として、早めの議論により、魅力的な事業に取り組んでほしい。

平成25年度の開館記念展は他市の美術館より大きくやらなかったという印象を。アーツ前橋は開館以来、教育や福祉の分野では地域コミュニティと協働した事業など、芸術の枠にとられない活動を行っている。ある一定の評価を得ることができたのではないかと思います。この5周年をどう迎えるかは、

本市が文化都市として発展していく上で重要です。

文化スポーツ観光部長 市民との協働や民間活力の投入などを視野に入れ、魅力ある事業を検討するとともに、しっかりした広報活動を推進していきたい。

岡議員 できるだけ早い段階での議論により、アーツカウンシル※の設置や、鐘を寄贈いただく太陽の会の協力を得る等、検討が必要かもしれません。また、市内の小中学校の児童生徒に、授業でアーツ前橋を体験してほしい。芸術の感じ方は人それぞれ。好きだと感じることも、嫌いだと感じることも、それが何故なのかを考えることが重要なのです。（規定時間のため終了）

※芸術文化振興のため、助成を中心とした支援をする独立機関

視察レポート

7月11日～13日の日程で、「別府市」「大分市」「三島市」を行政視察いたしました。それぞれの市の独自の取り組みから学んだことを、今後の前橋市のために活かしていきます。特に印象的だった2事例をご紹介します。

湯～園地のクラウドファンディング



大分県別府市「湯～園地」の取り組みとクラウドファンディング※ について伺いました。温泉の源泉数、湧出量共に日本一のまちで、新たな温泉の独自性・可能性のPR動画を制作。温泉ジェットコースターや観覧車家族風呂、浸かれるメリーゴーランドなど、温泉×遊園地で「湯～園地」、まるで夢のような動画です。しかも、「Youtubeで100万回再生されれば実際に開催する」と市長が動画の中で公約として発表するという、今までにない斬新なものでした。結果は3日間で100万回再生を突破し、製作費400万円に対し、広告費換算額は50億円。実現する時の仕組みも税金でなくクラウドファンディングでお金を集めると公言。約8000万円の資金が集まって実現しました。

アイデアは官、お金は民という状態で実現している事例です。通常の官民連携の場合、アイデアは民、お金は官のため、議会の承認や市民の理解など様々な力が働くので思い切った施策にすることが難しいです。「湯～園地」の事例から、前向きなアイデアで市民を引っ張っていく必要性を感じました。作って終わりではなく、実際に行動に移すこと、そして未来に繋がる施策にすることを学びました。

※インターネット上で、多くの人から資金を調達する仕組み・サービスのこと

3年に一度のアートフェスティバル



大分市は駅前に大きな駅ビルが建ちましたが、古くからある商店街との連携もうまくとれています。それに一役買っていたのがアートでした。2015年、3年に一度のアートフェスティバルとして大分トリエンナーレが開催されました。駅ビルができる、県立美術館ができるという百年に一度の大改革を迎えた中心市街地でその回遊性を高めることを最大の目的にアートを活かしたまちづくりの取り組みを商業のセクションである大分市商工労政課が行うことで成功につながりました。

今や全国どこでも行っているアートフェスですが、駅と中心市街地を結び付ける、誰もが使用するトイレに注目して作品を展開するなど様々な工夫で人々を呼び込んで、みんなでお出迎えしようという気持ちが伝わる内容でした。そのネーミングなどから様々なメディアに取り上げられてとても成功した地域アートフェスティバルの一つとなりました。2018年には第二回のトリエンナーレ※と国民文化祭が重なるため、大きくパワーアップする予定とのこと。今後が楽しみなアートフェスです。市民と行政の連携、県と市の連携が非常にうまくいっている印象でした。三年の準備期間を経て丁寧に連携を重ねて今後に繋げていく姿勢は大変勉強になりました。

※3年に一度開かれる国際美術展覧会のこと

市議会とは？

その1

市議会の役割

私たちの前橋を住みよいまちにしていくためにはどうしたらよいでしょう。それには市民一人ひとりが自分たちで考え、話し合い、決めたことを実行していくことが大切ですが、実際には大変難しいことです。

そこで、市民の声が十分に市政に反映されるように、「市議会議員」と「市長」を市民の代表として選挙で選んでいます。

市議会は、市民生活のいろいろな問題について審議し、市の政策を決定しています。このため、市議会は「議決機関」と呼ばれています。

一方、市長は市議会の決めたことに基づいて市政を進めていきます。このため、市長は「執行機関」と呼ばれています。

市議会と市長は、それぞれの権限を明確に分割し、議会は執行機関に対して批判的・監視的な立場から牽制（けんせい）することにより、公正で均衡のとれた円滑な行政が確保されます。地方自治体の行政が民主的・能率的に行われるようそれぞれが市民に対して責任を負っています。

赤利根
ジャーナルの
キーワード

ひらく
OPEN

市議や議会の動きを「見やすく・参加しやすく」します。

共有する
SHARE

会派「赤利根」と所属市議の「想い・感覚・体験」をあなたと共有します。

実行する
ACTION

「前橋を自慢できる都市」にするためのアクションを促します。

PICKUP

日々の活動報告



①



②



③



④



⑤



⑥

①**弁天ワッセ & 広瀬川スケッチ会** 毎月3日は、弁天ワッセで商店街が大にぎわい！地産野菜に手打ちそば、ピザ、雑貨などなんでもありの縁日です。6月3日は広瀬川倶楽部による無料のスケッチ会が行われていました。

②**LGBT について知ろう～自分らしく生きるには～** 平成29年度前橋市男女共同参画セミナーへ。元タカラジェンヌの東小雪さんの講演会でした。LGBT(※1)については知っているつもりでしたが、今回の講演で初めて聞く言葉もあり、非常に考えが深まりました。

③**前橋めぶくフェス** この日限定・中央通りアーケード下での「100人ディナー」と、多くの若者たちによるボランティアがとても印象的な良いイベントでした。今回はプレイベント。本番は11月3～5日の3日間で実施予定！

④**七夕まつり** 毎年恒例・7月初旬の4日間、様々な飾り付けがまちを彩り

ます。個人的には、飾りをゆっくり見られたり本来の前橋の雰囲気が残っている初日の木曜日が好きです。土日は立ち並ぶ露天商によって本来のお店がわからず残念です。(飾りの中にめぶきを発見！)

⑤**大分のバス** 視察先で乗ったバスの中に FREE Wi-Fi(※2)が。観光客に目を向けている土地では、もはや当たり前になりつつあるようです。

⑥**北高架下商店街** 別府の線路下の商店街。一時はかなりさびれていたようですが、現在は若手クリエイターや小物作家など手仕事系の人たちのお店が軒を連ねています。一軒のレコード屋さんのオープンがきっかけで若者が入り込んできたとのこと。「まちは一軒で変わる」と実感しました。

※1 同性愛者のレズビアン(L)やゲイ(G)、両性愛者のバイセクシュアル(B)、心と体の性が一致しないトランスジェンダー(T)といった性的少数者の総称。

※2 無料でインターネットに接続できる公衆無線 LAN サービスのこと。

AKATONE NEWS

第3回定例会開催予定

どなたでも傍聴できますので、市議会の様子をぜひご覧ください。

9月5日(火) 本会議(初日)
12日(火) 本会議(総括質問一日目)
13日(水) 本会議(総括質問二日目) ※赤利根 質問予定
27日(水) 本会議(最終日)

※本会議の傍聴は議会庁舎5階の議場入口で受け付けます。

※手話通訳を希望される場合は、傍聴希望日の7日前までに下記へご連絡ください。

前橋市議会 赤利根
〒371-8601 前橋市大手町二丁目12-1
電話 090-3510-6113

